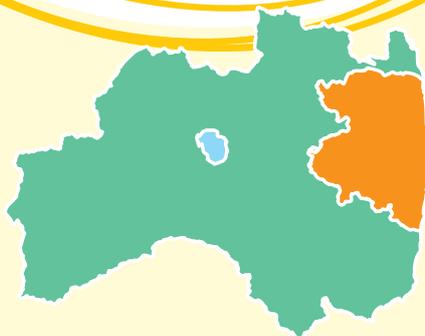


令和7年度
福島県教育復興推進事業

避難地域12市町村における
小中学校教育等推進事業
実践事例集



福島イノベーション・コースト構想を実現するために

支える3つの柱

あらゆる
チャレンジが
可能な地域



×

地域の
企業が主役



×

構想を支える
人材育成



福島イノベーション・コースト構想推進機構(福島イノベ機構)

主な5つの取り組み



産業集積

- 福島県浜通り地域等への企業誘致
- 進出企業と地元企業とのマッチング
- 企業の新ビジネスの立ち上げ支援
- 民間企業等の農業参入支援



教育・人材育成

- イノベ人材の裾野の拡大(小・中学校)
- 福島のポテンシャルの高さを知る(高等学校)
- 福島の復興に資する『知』の習得(大学等)
- 福島イノベ構想の周知(福島県全域)



交流人口の 拡大

- 福島県浜通り地域等の各拠点への来訪者呼び込み
- 福島県浜通り地域等への移住って移住促進
- ふくしま12市町村移住支援センターの運営



情報発信

- 県民党への福島イノベ構想のわかりやすい情報発信
- 県外からの呼び込みに向けた福島イノベ構想の魅力発信



拠点施設の 管理運営

- 福島ロボットテストフィールドの運営
- 東日本大震災・原子力災害伝承館の運営
- 拠点の利活用について県内外にPR

避難地域12市町村における小中学校教育等推進事業

■事業概要

福島県教育復興推進事業(避難地域12市町村における小中学校教育等推進事業)は、避難地域12市町村の小学校・中学校および義務教育学校において、優れたカリキュラムの編成・実証を行うとともに、魅力ある学校づくりに必要な教職員研修等を実施するために、2017年度より文部科学省の調査研究事業としてスタートしました。

各市町村の学校等では、本事業の趣旨に基づき、ふるさとに根ざした教育活動を展開し、児童生徒、保護者の双方が「通いたい」「通わせたい」と思えるような魅力的な学校づくりのための取り組みを進めています。

震災から14年が経過した現在、12市町村それぞれで復興の進捗や地域が抱える課題に違いが見られるようになりました。令和7年度は、復興事業全体の見直しに向けた重要な時期となります。これまでの成果と課題を改めて共有し、開発した「教育プログラム」の情報を発信するなど、「被災地から全国の地方創生につながる実践」を目指します。



避難地域12市町村

川俣町(山木屋)、田村市(都路)、南相馬市(小高)、飯館村、浪江町、葛尾村、双葉町、大熊町、富岡町、川内村、楡葉町、広野町

避難地域12市町村の現状

市町村ごとに復興の段階や抱えている課題はさまざまであり、その状況も一様ではありません。そのため、それぞれの実態に応じた、きめ細やかな支援を行っていくことが求められています。

学校「再編形態」の多様化

運営形態	市町村	学校名	特徴・備考	
元の地域で再開	小学校 中学校	田村市 南相馬市 楡葉町 広野町	都路小学校、都路中学校 小高小学校、小高中学校 楡葉小学校、楡葉中学校 広野小学校、広野中学校	避難指示解除後、児童生徒数等の状況を踏まえ、学校の集約等を行いながら元の地域で再開
	義務教育学校 (小中一貫教育)	飯館村 大熊町 川内村	いいたて希望の里学園 学び舎ゆめの森 川内小中学園	小学校・中学校の区分を設けず、9年間を通し一貫した教育課程を編成・実施
	小中併設校	川俣町 浪江町 葛尾村 富岡町	山木屋小学校・山木屋中学校 なみえ創成小学校・なみえ創成中学校 葛尾小学校・葛尾中学校 富岡小学校・富岡中学校	小学校と中学校が同じ校舎で学び、相互に連携しながら教育活動を行う形態
避難先で再開	双葉町	双葉南小学校、双葉北小学校 双葉中学校	いわき市にて教育活動を再開 2028年4月に双葉町に帰還し、義務教育学校等を開校予定	

目指す姿

- 児童生徒・保護者が「通いたい」「通わせたい」と思える魅力ある学校づくり
- 地域に“思いを馳せ”、地域を牽引する人材の育成
- 授業(個別最適化の充実)
 - ・ICT活用授業、外国語活動の充実、国際交流事業、体力向上プロジェクト等
- キャリア教育の深化(地域・探究活動等)
 - ・地域理解、魅力発信、歴史・文化の継承、防災・復興学習の深化
- 中山間地域における学校運営の在り方等の研究
- 地域と連携した「ふるさとに根ざした」魅力あるカリキュラムの構築

各校の取り組み

●川俣町	川俣町立山木屋小学校・中学校	5 ▶▶
●田村市	田村市立都路小学校	6 ▶▶
	田村市立都路中学校	7 ▶▶
●南相馬市	南相馬市立小高小学校	8 ▶▶
	南相馬市立小高中学校	9 ▶▶
●飯館村	飯館村立いいたて希望の里学園（前期課程）	10 ▶▶
	飯館村立いいたて希望の里学園（後期課程）	11 ▶▶
●浪江町	浪江町立なみえ創成小学校	12 ▶▶
	浪江町立なみえ創成中学校	13 ▶▶
●葛尾村	葛尾村立葛尾小学校	14 ▶▶
	葛尾村立葛尾中学校	15 ▶▶
●双葉町	双葉町立双葉南小学校・双葉北小学校	16 ▶▶
	双葉町立双葉中学校	17 ▶▶
●大熊町	大熊町立学び舎ゆめの森（前期課程）	18 ▶▶
	大熊町立学び舎ゆめの森（後期課程）	19 ▶▶
●富岡町	富岡町立富岡小学校	20 ▶▶
	富岡町立富岡中学校	21 ▶▶
●川内村	川内村立川内小中学園	22-23 ▶▶
●檜葉町	檜葉町立檜葉小学校	24 ▶▶
	檜葉町立檜葉中学校	25 ▶▶
●広野町	広野町立広野小学校	26 ▶▶
	広野町立広野中学校	27 ▶▶
研修会レポート	避難地域12市町村における 少人数教育に対応した教授法に関する教員研修	28 ▶▶
	令和7年度避難地域12市町村小中学校等教育推進事業 『通常学級に在籍する教育的支援を必要とする児童生徒理解』 教員研修	29 ▶▶



事業の目的

震災からの復興・防災学習や地域学習を通して、本地区の状況や特色等に関する理解を深め、復興推進や地域を牽引する人材の育成を図る。

取り組みの全体内容

- 1 地域に関する学習(和太鼓教室<5月~10月>、森林学習<5月~12月>、そば栽培学習<7月~11月>、職業人に聞く会<2月>)
- 2 防災・復興学習(請戸小学校跡・原子力災害伝承館<9月>)
- 3 避難地区12市町村との交流(葛尾中学校との交流<9月~2月>)
- 4 健康づくり(水泳・筋力トレーニング<6月~10月>)、柔道<11月~12月>、スケート<12月~2月>)
- 5 教職員等の研修
「令和7年度避難地域12市町村小中学校教育等推進事業担当者交流会」
「令和7年度避難地域12市町村における少人数教育に対応した教授法に関する教員研修」
「避難地域12市町村における小中学校教育等推進事業 教員研修_ID116876」(全教職員リモート参加)
- 6 学校の取り組みの情報発信(チラシづくり、HPでの紹介<通年>)

代表的な取組

里山学習(熊の防災教室)

開催日: 2025年9月3日(水)
対象学年及び参加人数: 全小中学生
開催場所: 学校

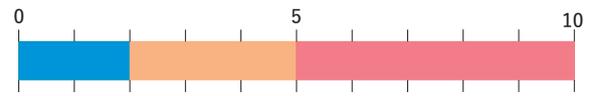
里山学習(獣マップ作成)

開催日: 2025年12月2日(火)
対象学年及び参加人数: 全小中学生
開催場所: 学校

今年度の取組で重視したポイントの内訳

(合計10)

- 広報の拡充
- 少人数ならではの教育の魅力化
- 学校を核としたコミュニティの再構築



熊の防災教室



獣マップ作成



そばの種まき



そば打ち



和太鼓学習 発表会



健康づくり 柔道

児童・生徒の声

- 実際に熊の毛皮や頭蓋骨を見るのは初めてでした。また、熊に出合ったときの対処法を教えてください勉強になりました。

教職員の声・成果

- 近年、本校近辺でも熊が捕獲されています。そのような状況の中で、県内でも有数の熊や害獣に関する研究者に指導していただくことは、児童・生徒の本地区理解を大いに深めることにつながりました。

保護者の声

- 実際に熊や動植物を研究している大学の先生の授業を受けることで、息子も動植物や生き物に対する興味がわいてきたようです。

田村市立都路小学校



事業の目的

- ①めざす児童像「未来を創る都路っ子の育成」のため、様々な体験活動を通して育成していく方針。全校生でのキャリア学習と震災関連の体験学習を実施する。
- ②科学実験講座により、自然現象に対する科学的・論理的思考の育成に資する。
- ③総合的な学習の時間での地域を深く学ぶ活動を中心とし、都路のよさや自慢をパンフレットに集約し、発信することで、地域の活性化の一助となり復興を支援していく。

取り組みの全体内容

- ①全校復興推進学習【浪江町、宮城県】(全校生)5月30日
 - 震災遺構 浪江町立請戸小学校(浪江)
 - ・東日本大震災で起きたことを学び、震災の脅威や教訓とともに、地域の記憶を知る。
 - 八木山動物公園(仙台市)
 - ・「体」「環境」「命」「仕事」の4つのテーマのプログラムがあり、学年ブロックごとにプログラムを選び、動物園の仕事について学ぶ活動を行う。
- ②全校仕事体験学習【宮城県】(全校生)11月28日
 - カドゥー新利府イオンモール新利府内(利府市)
 - ・約20種類の仕事の中から、興味のある仕事を3つ選択し、仕事体験を行い、働くことへの関心を広げる。
- ③理科実験講座出前授業【福島大学より講師招聘】(3・4年生)10月3日 水の温度による変化の実験 (5・6年生)10月9日 発電や電気を使った実験
- ④総合的な学習の時間 「都路の良さを発信しよう」
 - ・修学旅行におけるPR活動
 - 【東京都】(6年生)6月19日 都路の自慢をパンフレットにまとめ、日本橋ふくしま館にて都路PR活動を行う。
 - ・中野区平和の森小学校との交流
 - 【東京都】(6年生)6月19日 修学旅行時に、平和の森小学校との交流会を実施し、都路のことを知ってもらったり、東京都の学校の特色を知ったりする。
 - ・中野区平和の森小学校との体験交流
 - 【オンライン】(全校生)3月5日 浪江町請戸小の見学の体験を振り返りながら、語り部の話を通して、地域の方の思いを知る。

代表的な取組

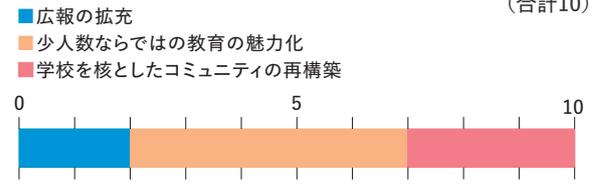
全校復興推進学習【浪江町】

開催日：2025年5月30日(金)
 対象学年及び参加人数：全学年 32名
 開催場所：震災遺構請戸小学校

全校仕事体験学習【宮城県】

開催日：2025年11月28日(金)
 対象学年及び参加人数：全学年 32名
 開催場所：カドゥー新利府

今年度の取組で重視したポイントの内訳



請戸小で震災を学ぶ全校復興推進学習



いろいろな仕事に挑戦した全校仕事体験学習



科学のおもしろさを体験した理科実験講座



都路の自慢を伝えた平和の森小学校との交流



自分たちで作ったパンフレットでPR活動

児童・生徒の声

- いろいろな仕事を体験できて仕事をするのが楽しかった。
- 今まで興味がなかった仕事も、やってみると興味が出てきた。

教職員の声・成果

- 将来の夢を明確にもっていない児童も、仕事体験を通して、働くことへの関心やいろいろ職種への興味が広がったように感じる。充実したキャリア教育になった。

保護者の声

- 仕事体験や震災学習など、都路ならではのいろいろな体験ができて、とても良い経験ができています。

田村市立都路中学校



事業の目的

1. ドローン学習を継続して実施し、都路町のPR動画を作成するなど、地域おこしの一端を担うことができる人材の育成を目指す。
2. 研修を通して、ALTや地域に住む外国籍の方々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上、英語検定試験へのチャレンジ、市主催の英語研修や海外研修への積極的な参加を促す。

取り組みの全体内容

- ・ドローン実習事前学習(5月)
- ・事前学習、ブリティッシュヒルズ英語研修(11月)
- ・ドローン実習(6月)
- ・事後学習(12月)、英語検定(1月)今年度15名受験予定

代表的な取組

ドローン実習

開催日: 2025年6月25日(水)~26日(木)
 対象学年及び参加人数: 2年生12名
 開催場所: 学校

ブリティッシュヒルズ英語研修

開催日: 2025年11月20日(木)
 対象学年及び参加人数: 3年5名、2年12名、1年5名
 開催場所: ブリティッシュヒルズ

今年度の取組で重視したポイントの内訳



研修オリエンテーションの様子



全体オリエンテーションの様子



ドローン操作(基礎)の様子



ドローン操作(応用)の様子



イギリスの伝統のお菓子づくり



英語を使ったゲーム

児童・生徒の声

【ドローン実習】

- ドローンに関する法律・操作方法・危険性・地域とのつながりを学ぶことができた。
- 社会でどのようにドローンが使用されているのかなど、具体的に知ることができた。

【ブリティッシュヒルズ英語研修】

- 習った英語が、実際に通じてとても嬉しかった。楽しく英語を学ぶことができた。
- 英語が通じたことが、学習のモチベーションアップにつながった。

教職員の声・成果

【ドローン実習】

- ドローンに関する講話や体験を通して、仕事に対するの向き合い方や考え方を深める機会になった。

【ブリティッシュヒルズ英語研修】

- 英会話を通して、他国の文化を学ぶことにより幅の広い学びとなった。また、生徒が英語学習の目標をより具体的にもてるようになった。

保護者の声

- ドローンによる、都路地区への地域貢献を期待している。
- 楽しく活動に参加し、英語への興味・関心が高まっているようだ。

南相馬市立小高小学校



事業の目的

南相馬市小高区の歴史や産業、復興の取り組みについて理解を深め、ふるさとへの誇りと愛着を育成し、体験的な学習や高等教育機関との連携を通じて、復興と地域の将来を担う人材の育成を図る。

取り組みの全体内容

- 総合的な学習の時間における南相馬市の現状や地域の特色について調べる学習(6月～)
- キャリア育成と学習意欲の向上のための大学生(新潟大学)との交流活動(8月)

代表的な取組

社会科における
ごみ処理・資源循環についての学習

開催日: 2025年8月29日(金)
対象学年及び参加人数: 4年生12名
開催場所: 南相馬市リサイクルセンター

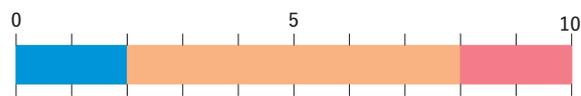
大学生との交流活動

開催日: 2025年8月29日(金)
対象学年及び参加人数: 1～6年生98名
開催場所: 小高小学校内外

今年度の取組で重視したポイントの内訳

(合計10)

- 広報の拡充
- 少人数ならではの教育の魅力化
- 学校を核としたコミュニティの再構築



新潟大生と一緒にリサイクルセンターを見学



リサイクルセンターの施設見学(紙類)



南相馬市に1日にでるペットボトルの量の説明を受けている。



ペットボトルや紙類を回収した倉庫の説明と見学。



回収した缶やペットボトルの分別についての説明



新潟大生と外にいる生き物を探して観察

児童・生徒の声

- 私たちの町で毎日こんなにごみを出しているなんてびっくりした。できるだけださないようにしてみたい。うちの人と協力したいです。
- ペットボトルとか缶とかこんなにあっつらとおどろいた。またこれが生まれ変わって新しいものにかわるなら、そのへんにすてないでちゃんとゴミ箱にいれてリサイクルしたい。
- 南相馬市が福島県でほとんどいばんにごみが出ていることを聞いてショックだった。みんなでへらすための方法を考えてほしい。ぼくもそれをやりたい。
- 分別を一人一人のひとがやっていることがすごかった。あんなにたくさんものををていねいにやらないとリサイクルできないから、へんなものをいれないでみんなぶんべつしてほしい。

教職員の声・成果

- 児童は、リサイクルという言葉は知ってはいたが、具体的に誰がどのようにしてリサイクルされている現状を見たことがなかった。現地に行き、直接見たり職員の話聞くことにより理解を深めることができ、また児童のリサイクルへの意欲を高めることができた。

保護者の声

- ごみの分別について、今まで知らなかったことを家に帰ってきてから教えてくれました。私もこれからごみを減らせるよう頑張ると言っていました。
- ごみが分別してお母さんがちゃんと出してくれていることに感謝してくれました。これからぼくも手伝うからと言ってくれていました。

南相馬市立小高中学校



事業の目的

郷土の歴史や文化、産業について考えたり、関連施設を見学したりすることによって、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、場に応じた問題解決をする能力を育成する。

取り組みの全体内容

- 再生可能エネルギーの現状を知る(6/13) ○施設見学及びプログラミング体験(9/17)
- 新規農業経営を行っている企業見学及び体験活動(7/16・9/18)

代表的な取組

新規農業経営を行っている
企業見学及び体験活動

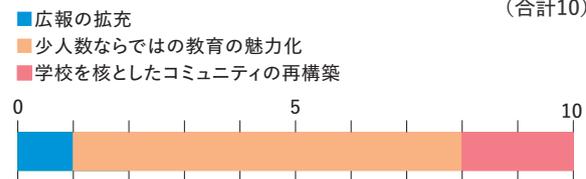
開催日：2025年7月16日(水)
対象学年及び参加人数：1年生7名
開催場所：ブルーベリーパークびぼば

施設見学及びプログラミング体験

開催日：2025年9月17日(水)
対象学年及び参加人数：1年生7名
開催場所：福島ロボットテストフィールド

今年度の取組で重視したポイントの内訳

(合計10)



びぼば ブルーベリーの収穫体験



ロボテス プログラミング体験



ブロッコリー畑の見学



ブロッコリーの植え機械の見学



ロボテスの施設見学(屋上)



ロボテスの施設見学(屋内)

児童・生徒の声

- 農作物の収穫をしたことがないので、収穫体験が出来たことがとても嬉しい。
- 赤いブルーベリーがあることを初めて知った。様々な品種があることも知ることが出来たし、ブルーベリーがとてもおいしくて感動した。
- 米作りもしていると聞いて驚いた。農園のお米も食べてみたいと思った。

教職員の声・成果

- 生徒、保護者から、体験で学んだ事を家庭で楽しく話していたと聞き、家族で郷土について考えるきっかけとなった。また、スマート農法への取り組みや農作物との関わり方について学ぶことができ、知っていそうで知らない地元のよさを発見するよい機会となった。

保護者の声

- 子どもが収穫したブルーベリーを、家族で食べることができうれしかった。祖父母にもお裾分けしたり小分けにして冷凍したりして、楽しみながら食べることにした。
- 家族の外出は遠方が多いので、体験できる地元の施設の情報も知ることができて良かった。

飯館村立いたて希望の里学園(前期課程)



事業の目的

被災地ならではの心の教育の一環として、また芸術に触れる機会が著しく少ない飯館村の実態を考慮して、優れた芸術を直接鑑賞することで、児童生徒の芸術的な資質・鑑賞能力を育成する。

また、これから生きる児童には、情報活用能力の抜本的な向上と質の高い探究的な学びの実現が必要であることから、プログラミングの体験を通して論理的思考力と情報技術の特性に対する理解力や活用する力を育成する。

取り組みの全体内容

- ・山形交響楽団による芸術鑑賞教室(5月)
- ・プログラミング研修会(9月～12月)
- ・プログラミングを取り入れた授業の実施(9月～12月)

代表的な取組

山形交響楽団による芸術鑑賞教室

開催日:2025年5月21日(水)

対象学年及び参加人数:全校児童生徒75名

開催場所:いたて希望の里学園体育館

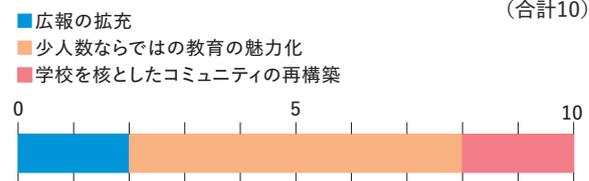
プログラミングを取り入れた授業の実施

開催日:2025年11月28日(金)

対象学年及び参加人数:5・6年生 13名

開催場所:いたて希望の里学園多目的ホール

今年度の取組で重視したポイントの内訳



芸術鑑賞教室における1年生の指揮者体験



芸術鑑賞教室における6年生の指揮者体験



プログラミング教育研修会の様子



プログラムを用いて作図をしている様子



1・2年生のプログラミング体験の様子



3・4年生のプログラミング体験の様子

児童・生徒の声

- 山形交響楽団の指揮者の人は、動きで曲調を変えて表現していたし、私には指揮棒をあげるところが「息を吸って、はい、ここから!」と伝えているように感じた。オーケストラの演奏で「ビリーブ」を歌えてうれしかった。
- プログラミングでは、ロボットにしっかり指示しないと、自分が考えているとおりに動いてくれないので、どの順番で指示を出せばいいかを考えるのが難しかった。

教職員の声・成果

- 飯館村では伝統芸能などは数多くあるが、迫力あるオーケストラの演奏を聴く機会はなく、子どもたちにとって大変すばらしい時間となった。また、オーケストラの演奏に合わせて歌うという機会も得られた。村の広報にも掲載されたので、保護者や地域の方にも本校の魅力が伝わったと思う。
- 社会の多くがシステム化し、生成AIの活用も広がる中、問題を分析し、課題解決のために順序立てて最適な解決策を考える論理的思考力は、これから生きる児童に必要な不可欠であり、講師の指導の下、概念から具体的な指導法までを学べたことは非常によかった。また、異年齢集団で学ぶ機会にもつながっており、少人数ならではの学びのよさが得られた。

保護者の声

- 子どもたちにとって芸術鑑賞教室は、なかなか得られない体験ができる場なので、今後も続けてほしい。

飯舘村立いたて希望の里学園(後期課程)



事業の目的

東日本大震災による全村避難を経て、平成30年度に帰村した飯舘村の復興のため、飯舘村の「ひと、もの、こと」に関わるプロジェクト型学習を実施し、自然・文化・歴史・伝統を体系的に学ぶとともに、伝統文化を継承し、未来の飯舘村を作る人材を育成する。また、独自の教科である「いたて学」の充実を図ることを目的とする。

取り組みの全体内容

- ・福島大学特任教授との「いたて学」実施検討会(5月)
- ・地域のゲストティーチャーを招聘した授業の実施(6月～10月)
- ・福島大学特任教授及び大学生等によるいたて学集中講義(9月)
- ・文化祭「いたてっ子発表会「赤蜻祭」」でのいたて学に関する各学年の発表(10月)

代表的な取組

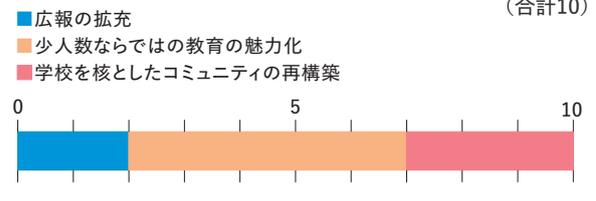
いたて学集中講義

開催日: 2025年9月12日(金)
対象学年及び参加人数: 後期課程31名
開催場所: いたて希望の里学園教室

文化祭「いたてっ子発表会「赤蜻祭」

開催日: 2025年10月25日(土)
対象学年及び参加人数: 後期課程31名
開催場所: いたて希望の里学園体育館

今年度の取組で重視したポイントの内訳



准教授及び大学生とのディスカッションの様子



いたてっ子発表会「赤蜻祭」の発表の様子



いたてっ子発表会「赤蜻祭」の発表の様子



いたてっ子発表会「赤蜻祭」で演じた地域の伝統芸能「小宮の田植え踊り」



児童・生徒の声

- 自分たちが進める学習について、ディスカッションを通して大学の先生や大学生から意見を聞くことができ、どのように進めればいいのかを考えることができた。
- いたてっ子発表会「赤蜻祭」では、飯舘村の「ひと、もの、こと」について、自分たちが調べ、まとめ、考え、村に提言したいと思った内容を発表できてよかった。

教職員の声・成果

- 「いたて学」は本校独自の教科であり、全村避難を経験した飯舘村の復興を力強く推進する教科である。生徒たちは、学年毎に飯舘村の「過去」「現在」「未来」に分かれ、プロジェクト型学習によって学びを深めた。生徒たちは、その成果を村長や多くの議員、地域の方々が参加するいたてっ子発表会「赤蜻祭」で発表することができ、復興に対する参画意識を高めることができた。

保護者の声

- 学校評価アンケートの『「いたて学」をはじめ様々な学習を通して、地域の方々や様々な人たちと交流し、「飯舘村」について探究的に学習を進めている。』の問いに対しては、「そう思う」が74%、「ややそう思う」が26%であり、肯定的な回答が100%であった。また、いたてっ子発表会「赤蜻祭」に参加した保護者からは、「生徒の『過去』『現在』『未来』のテーマに基づいた発表に村への思いが感じられてうれしかった。」という声があった。

浪江町立なみえ創成小学校



事業の目的

被災地の学校教育復興及び再生に向けて、地方創生のモデルとなる取り組みを継続する。また、各種団体と連携を図り、さらなる教育復興の加速化と、帰還、移住した児童の郷土愛を育むことを目的としている。

取り組みの全体内容

- ・ふるさと学習「大堀相馬焼体験」(6月)
- ・ふるさと学習「なみえ焼そばづくり」(9月)
- ・ふるさと学習「紅葉汁づくり」(9月)
- ・ふるさと学習「かぼちゃ饅頭づくり」(10月)
- ・地域交流活動「太鼓波音体験」(10月)
- ・地域交流活動「プランター花苗の寄贈」(11月)
- ・地域交流活動「地域の昔遊び」(12月)
- ・各種団体との連携「立命館大学:安全安心マップづくり」(7月)
- ・各種団体との連携「弘前大学:川の生き物ふれあい体験」(6月)
- ・各種団体との連携「弘前大学:秋の昆虫採集体験」(11月)
- ・各種団体との連携「相双建築事務所:橋名板設置」(7月)
- ・各種団体との連携「相双建築事務所:豪雨から子どもの命を守る出前講座」(11月)
- ・各種団体との連携「ロボットテストフィールド:WRS参加」(10月)
- ・各種団体との連携「F-REI:情報教育、プログラミング教育」(2月)
- ・成果発表会「ふるさと創造学サミット」(11月)

代表的な取組

川の生き物ふれあい体験

開催日:2025年6月6日(金)

対象学年及び参加人数:1、2年生29名

開催場所:請戸川

大堀相馬焼体験

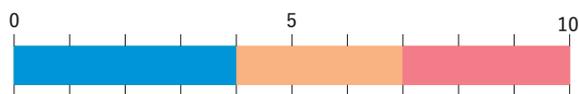
開催日:2025年6月13日(金)

対象学年及び参加人数:全学年60名

開催場所:学校

今年度の取組で重視したポイントの内訳

- 広報の拡充 (合計10)
- 少人数ならではの教育の魅力化
- 学校を核としたコミュニティの再構築



水生生物の採取・観察



国の伝統工芸品:大堀相馬焼体験



焼そばサミットで発表



ワールドロボットサミット参加



高瀬橋橋名版の取付



安全マップの現地策策

児童・生徒の声

- 私が見た魚は、「ウナギ」です。とても大きかったです。
- たくさんの生き物がいました。(請戸川に)こんなにたくさんの生き物がいてびっくりしました。
- (実体顕微鏡に写った)魚のエラがトゲトゲしていて、(詳しく見る事ができて)すごかったです。
- 魚は(石倉籠内の)石の裏に隠れていて取るのがむずかしかったです。

教職員の声・成果

- 在籍している子どもたちの中には、魚博士のように魚について詳しく興味をもって観察している姿を見ることができました。この活動により、子どもたちは生き物の多様性を知り、自然環境が保護されることで請戸川の生態系を学ぶことができたと考えます。
- 普段学校内では見ることができない子どもたちの意欲的な姿が見られました。子どもと学生が一緒になって体験している場面は、学校教育の枠を越えた学習の重要性を示していると思います。

保護者の声

- 子供が請戸川の生き物に強い関心を持ち、地域の自然の豊かさを再認識する貴重な機会となりました。
- 学生さんとの交流を通じて、教科学習の枠を越えた生きた学びに触れることができ、子供の視野が広がったと感じます。

浪江町立なみえ創成中学校



事業の目的

浪江町の現状を分析し、広報活動を通して浪江町の魅力を発信し、地元の活性化を図り、その成果を発表する。また、少人数ならではの教育を生かし、哲学対話を行うことで、自ら問う力、自分の思いや考えを表現する力、仲間とともに探求しようとする力を養う。

取り組みの全体内容

広報活動の企画・立案・準備(4月～9月)

広報活動の実践(8月、9月)

広報活動の成果発表(10月、11月)

保護者の哲学対話体験(4月)

哲学対話の授業(5月、9月、1月)

代表的な
取組

哲学対話

開催日: 2025年9月25日(木)

対象学年及び参加人数: 第1・3学年 16名

開催場所: 各教室

文化祭での成果発表

開催日: 2025年10月24日(金)

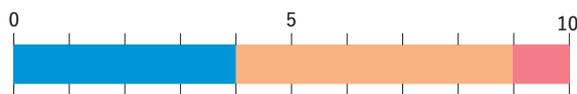
対象学年及び参加人数: 第3学年 9名

開催場所: 本校体育館

今年度の取組で重視したポイントの内訳

(合計10)

- 広報の拡充
- 少人数ならではの教育の魅力化
- 学校を核としたコミュニティの再構築



文化祭で広報活動等の成果を劇仕立てで発表



講師による哲学対話の授業



文化祭の発表前に、お世話になった関係者の前で発表



夏休みにPR活動を実施



保護者の哲学対話体験



哲学対話の手法を取り入れた授業

児童・生徒の声

- 「浪江町の魅力」と「多くの人に来てもらうためには」の両立を考えることで、例の無い商品を考えることができました。対話を通じたグループでの活動のおかげだと思う。

教職員の声・成果

- 前年度の実践を踏まえ、浪江町のためにできることを様々な視点から考え、探究のプロセスを踏み活動した。哲学対話で培ったファシリテート力や協働をベースにして進めることができ、有意義な時間だった。成果の発表も単なるスライドを用いた物では無く、生徒たちが自分たちにできることを考えた上で行うことができ、有意義な成果発表となった。

保護者の声

- 哲学対話を時間に体験し、その面白さを理解できた。もう少し時間がほしかった。
- 年間を通じた魅力発信など、広報活動が更に続くといい。

葛尾村立葛尾小学校



事業の目的

震災以降、児童数が激減したことにより、集団における社会性や協調性の醸成や、競争心・向上心が育ちにくい状況である。また、少人数のため、スポーツ少年団等の活動もできず、運動する機会は体育の授業のみである。そこで、スイミングスクールに通い、柔軟性・平衡感覚、持久力などの基礎的な運動能力の向上を図るとともに、集団における社会性・協調性を身につけることを目的としている。

取り組みの全体内容

・スイミングスクール受講(4月～3月)

代表的な
取組

スイミングスクール受講

開催日：毎週火曜日(通年)

対象学年及び参加人数：

1年生～6年生 計15名

開催場所：ホシノスイミングスクール
(田村市)

今年度の取組で重視したポイントの内訳

(合計10)

- 広報の拡充
- 少人数ならではの教育の魅力化
- 学校を核としたコミュニティの再構築



スイミングスクール受講の様子



哲学対話で発言する人が持つ、
名前のないぬいぐるみ
(コミュニケーションボール)



自分の名前を使って”問い”を考える「問いうえお」に挑戦!

児童・生徒の声

- 1級を目指してがんばっている。
- できることが増えてうれしい。
- スイミングスクールで泳げるようになり、体育の水泳の授業が楽しい。

教職員の声・成果

- 基礎体力が向上した。
- 学校の水泳授業においても、水に慣れているため、発展性のある授業が展開できる。

保護者の声

- 進級が成功体験となり、他の分野のモチベーションが上がっているようだ。
- 本人がとても楽しく参加しており、今後も継続してほしい。

葛尾村立葛尾中学校



事業の目的

- ・生徒自身が強く感じる「問い」について、対話を通して本質的に深めていくよさや楽しさを感じ、進んで思考や対話をしようとする態度を育てる。
- ・当たり前だと思っていることを改めて問い直し言語化したり、聞き合ったりする活動を通して、他者の価値観を理解し、自己の価値観を深めることができるようにする。

取り組みの全体内容

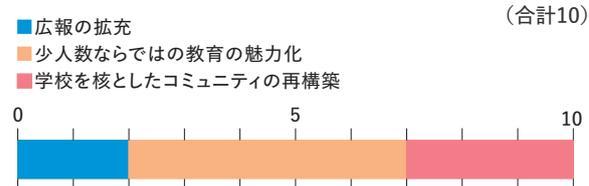
- ・哲学対話の実施(年3回)・・・児童・生徒、保護者、地域住民
- ・哲学対話に関する教員研修の実施(1回)

代表的な取組

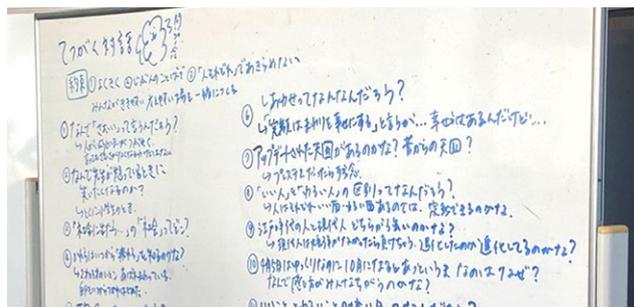
「てつたい(哲学対話)」開催

開催日：2025年
 7月7日(月)・・・教職員研修
 7月8日(火)・・・小・中学生、保護者
 ※授業参観で実施
 10月28日(火)・・・小・中学生
 12月4日(木)・・・小・中学生、
 地域住民
 開催場所：葛尾小・中学校

今年度の取組で重視したポイントの内訳



小学校5・6年生、中学生の哲学対話の様子



ホワイトボード2枚に達するほど、たくさんの「問い」を出しました



保護者も参加した哲学対話の様子



和やかな雰囲気では対話が弾みました

児童・生徒の声

- 友達が違う意見を持っていると「なぜそう思うのか」まで知りたいと思うようになった。
- 異なる意見に触れることや、掘り下げて考えることの楽しさを知った。

教職員の声・成果

- 小学校の授業に哲学対話的な手法を取り入れることの難しさを経験した。次年度はさらなる研修で、哲学対話への理解を深め、実践的な技術を高めていきたい。
- 哲学対話は「問い」を出すことからスタートするが、回数を重ねるにつれて、生徒がたくさん「問い」を出せるようになり、大きな成長が見られた。

保護者の声

- 授業参観で哲学対話をしている子どもを見て、親が考えている以上に物事に対して様々な考えを持っていることや、自分の考えを言える姿が見られて良かった。
- 保護者同士の哲学対話に参加したが、対話することはとても難しかった。

双葉町立双葉南・北小学校



事業の目的

総合的な学習の時間で、双葉町を盛り上げるために探究学習を行っている。双葉町で作られているブロッコリーについて、どう活用しアピールすれば町の復興につながるか考えることで、「ふるさと創造学」の充実を図ることを目的とする。

取り組みの全体内容

- ・双葉町訪問、双葉町の農業見学・企業見学・町探検(6月)
- ・ブロッコリー農家との連携(7～9月)
- ・成果発表会(11月)
- ・双葉町訪問(2月)

代表的な取組

農業見学・企業見学・町探検

開催日：2025年6月4日(水)
対象学年及び参加人数：3～6年生10名
開催場所：双葉町

ブロッコリー農家との連携

開催日：2025年7～9月
対象学年及び参加人数：6年生5名
開催場所：学校

今年度の取組で重視したポイントの内訳



農業体験(ブロッコリー)の様子



ポスター作成の様子



児童作成のキャラクター 農産物販売での活用



双葉町の企業見学



双葉町探検



哲学対話の手法を取り入れた授業

児童・生徒の声

- 双葉町を震災の前より、もっとにぎやかにしていきたい。
- 作ったキャラクターを使って、会社の経営者になり、町を活性化させたい。
- これからも、みんなで力を合わせて、双葉町のために探究活動を続けていきたい。

教職員の声・成果

- 避難先のいわき市で教育活動を行っているため、児童が双葉町に実際に行って活動することが重要である。農家や企業の方との交流を通じて多くの学びを得ることができた。そのため、課題意識をもって探究活動に取り組むことにつながっている。

保護者の声

- 双葉町のために生き生きと頑張っている子どもたちの様子を見て、うれしい気持ちになった。

双葉町立双葉中学校



事業の目的

外国語で積極的にコミュニケーションを図りながら、言語や文化について体験的に理解を深めることができる外部施設（Tokyo Global Gateway）を利用することで、国際理解への関心を高めるとともに、グローバル人材の育成に繋げることができる。

取り組みの全体内容

- ・英語の授業による事前学習(10月より)
- ・校外体験学習(Tokyo Global Gateway)、まとめの学習(11月)
- ・双葉町生徒英国派遣・まとめの学習(1・2月)、報告会(3月)

代表的な取組

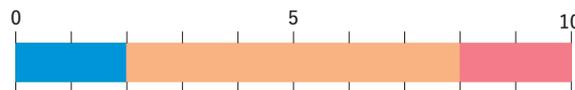
校外体験学習 (Tokyo Global Gateway)

開催日：2025年11月17日(月)・18日(火)
対象学年及び参加人数：全学年
開催場所：Tokyo Global Gateway

今年度の取組で重視したポイントの内訳

(合計10)

- 広報の拡充
- 少人数ならではの教育の魅力化
- 学校を核としたコミュニティの再構築



Tokyo Global Gatewayでの集合写真



Tokyo Global Gatewayでの活動写真



Tokyo Global Gatewayでの活動写真



児童・生徒の声

- 貴重な体験ができた。この経験を英国派遣に生かしていきたい。
- 緊張したが、慣れてくると楽しくなった。また、やってみたい。

教職員の声・成果

- 言語や文化について体験的に理解を深めることができた。この経験を今後につなげていきたい。英語弁論大会に1名が参加し、堂々と発表することができた。積極的に英語検定を受検する生徒が出てきた。

保護者の声

- とても良い経験ができたと思います。感謝申し上げます。

事業の目的

世界の人々との交流を通して、多文化共生の態度を身につけると共に、異文化を尊重し、異なる文化をもった人々と共に生きていく資質・能力や国際社会におけるコミュニケーション能力を育むことを目的とする。

取り組みの全体内容

海外出身のゲストを学校に3名ずつ毎月オンラインまたは学校に招待し、児童生徒が主体となって交流した。

代表的な取組

オンライン交流 ベトナム・アフガニスタン・インド

開催日：2025年4月25日（金）
対象学年及び参加人数：3年生～9年生
開催場所：学校 校内各所

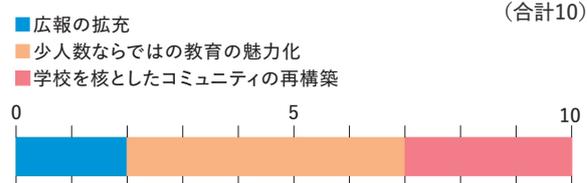
オンライン交流 アメリカ・タイ・ウクライナ

開催日：2025年6月27日（金）
対象学年及び参加人数：3年生～9年生
開催場所：学校 校内各所

直接交流 アメリカ・スウェーデン

開催日：2025年12月13日（金）
対象学年及び参加人数：3年生～9年生
開催場所：学校 本の広場

今年度の取組で重視したポイントの内訳



アメリカ合衆国とスウェーデンから来日したゲストと直接交流



英語での自己紹介や英会話にも挑戦



毎月3人のゲストフレンドと交流



ゲストに合わせて関連図書コーナーを設置



外国人ゲストと通訳を交えてオンラインで交流



地球儀でゲストの出身国に思いを馳せて



通訳により他国文化の理解も深まる



資料も見ながらゲストを理解



質問内容をスタッフと相談



オンライン交流の様子

児童・生徒の声

- スウェーデン出身のケンダルさんから、スウェーデンではオーロラを見ることができると聞き、私も本物を見たいと思いました。
- 自己紹介で「アニメが好き」と言ったら、外国の人も「アニメ好き!」と言ってくれて嬉しかったです。
- 何回も参加するたびに、今までで一番質問できたと思います。次は英語をもっと使って質問したいです。

教職員の声・成果

- 児童生徒が「どうすれば伝わるか」を主体的に考える姿が見られ、国際理解教育の目的に合った活動であると感じました。
- 英語の授業の中で外国人ゲストに何を伝えたいかを事前に考えたことによって、積極的な姿が見られて英語の授業にも良い緊張感がありました。
- 英語だけに頼らず、ジェスチャーや図を使うなど、多様なコミュニケーション手段を自分たちで工夫していたことが印象的でした。
- 児童生徒は、多くの国の方々と交流を通して、語学力やコミュニケーション力を高めており、グローバル人材の育成につながっていると感じました。

保護者の声

- 家でも「今日はこんなことを話したよ」と、楽しそうに報告してくれました。自分から外国の人に話しかけたようで成長を感じました。
- 交流を通じて、世界に興味を持つ気持ちが生まれたようです。将来は留学することにとても関心を持っています。
- 家族で行った海外旅行の報告を、子どもからこの授業の中でさせてもらいました。海外で見聞きしたことへ反響をもらって自信になったようです。

富岡町立富岡小学校



事業の目的

(1) 国際理解事業

ALTを学校に配置し生きた英語を学ぶことで、英語への抵抗感を軽減し、グローバル化に対応するための言語能力や価値観を身につけることを目的として実施する。また、海外の文化を学ぶことにより、日本、ひいては富岡町について改めて考える機会を作り出すことを目的としている。

(2) 身体づくり事業

プロとして活躍していたスポーツ選手等から身体づくり・健康づくりを学ぶことにより、楽しみながら身体を動かす運動への意欲向上を図るだけでなく、困難な状況にも主体的に立ち向かうための精神力の醸成を目的として実施する。また、富岡町ではまだ地域住民が少ないことから、家族と先生以外の大人との交流の機会を設けることにより、社会性を育むことも目的としている。

取り組みの全体内容

(1) 国際理解事業

- 実用英語技能検定受検のALTの支援
- 通常授業やパフォーマンステストにおけるALTの支援
- プリティッシュヒルズでの研修

(2) 身体づくり事業

- 各種運動教室(陸上運動、創作ダンス、器械運動)
- 生活習慣に関する講話

代表的な
取組

国際理解事業

開催日：通年
対象学年及び参加人数：小1～小6
開催場所：各教室

身体づくり事業

開催日：通年
対象学年及び参加人数：小1～小6
開催場所：校庭・体育館・各教室

今年度の取組で重視したポイントの内訳



わくわく英語dayハロウィン文化に触れます



マット運動で技を決めます

児童・生徒の声

- 国際理解事業
 - ・英語を使って会話をすることが楽しくなった。
 - ・外国の文化に興味を持つことができた。
- 身体づくり事業
 - ・プロの方に運動を教えてもらい、苦手な運動ができるようになった。

教職員の声・成果

- 国際理解事業
 - ・生徒がALTとコミュニケーションを取る機会が増えており、英語に対する関心や英語力も高まってきている。
- 身体づくり事業
 - ・プロかつ専門家の教え方を間近で見られるのはとても貴重であり、児童だけでなく、教職員として指導していくなかでありがたいと感じている。

保護者の声

- 国際理解事業
 - ・ALTが学校に毎日勤務していることにより、子どもたちが日常的に英語に触れることはありがたい。
 - ・将来につながる力が身につく機会を設けてもらえるのはありがたい。
- 身体づくり事業
 - ・子どもが運動を得意に感じるようになった。
 - ・子どもの体力づくりや健康のためにも、様々な運動に取り組む機会があることはありがたい。

富岡町立富岡中学校



事業の目的

(1) 国際理解事業

ALTを学校に配置し生きた英語を学ぶことで、英語への抵抗感を軽減し、グローバル化に対応するための言語能力や価値観を身につけることを目的として実施する。また、海外の文化を学ぶことにより、日本、ひいては富岡町について改めて考える機会を作り出すことを目的としている。

(2) 身体づくり事業

プロとして活躍していたスポーツ選手等から身体づくり・健康づくりを学ぶことにより、楽しみながら身体を動かし運動への意欲向上を図るだけでなく、困難な状況にも主体的に立ち向かうための精神力の醸成を目的として実施する。また、富岡町ではまだ地域住民が少ないことから、家族と先生以外の大人との交流の機会を設けることにより、社会性を育むことも目的としている。

取り組みの全体内容

(1) 国際理解事業

- 実用英語技能検定受検のALTの支援
- 通常授業やパフォーマンステストにおけるALTの支援
- ブリティッシュヒルズでの研修

(2) 身体づくり事業

- 各種運動教室(陸上運動、創作ダンス、器械運動等)
- 生活習慣に関する講話

代表的な
取組

国際理解事業

開催日：通年
対象学年及び参加人数：中1～中3
開催場所：各教室

身体づくり事業

開催日：通年
対象学年及び参加人数：中1～中3
開催場所：校庭・体育館・各教室

今年度の取組で重視したポイントの内訳



授業での支援の様子



創作ダンスの様子

児童・生徒の声

- 国際理解事業
 - ・英語を使った会話に抵抗がなくなった。
- 身体づくり事業
 - ・指導を受けることで、正しいフォームを身につけることができた。
 - ・自信を持って体を動かすことができるようになった。

教職員の声・成果

- 国際理解事業
 - ・生徒がALTとコミュニケーションを取る機会が増えてきており、英語に対する関心や英語を使用することへの自信に繋がっている。
- 身体づくり事業
 - ・プロかつ専門家の教え方を間近で見られるのはとても貴重であり、生徒だけでなく、教職員として指導していくなかでありがたいと感じている。

保護者の声

- 国際理解事業
 - ・ALTが学校に毎日勤務していることによって、子どもたちが日常的に英語に触れることはありがたい。
 - ・将来につながる力が身につく機会を設けてもらえることはありがたい。
- 身体づくり事業
 - ・子どもが運動を得意に感じるようになった。
 - ・子どもの体力づくりや健康のためにも、様々な運動に取り組む機会があることはありがたい。

事業の目的

北海道の広大な大地へ足を運び、川内小中学園では経験することのできない児童数の多い環境である士別市立士別南小学校での授業体験や児童との交流を図り、より多くの見聞を広めることを目的とする。

取り組みの全体内容

- ・事前交流学习(9月 オンライン)
- ・川内っ子北の大地で交流学校(9月 北海道士別市)

代表的な
取組

川内っ子北の大地で交流学校

開催日：2025年9月24日(水)～27日(土)
対象学年及び参加人数：第5学年12名
開催場所：士別市立士別南小学校、
士別市内施設

今年度の取組で重視したポイントの内訳

(合計10)

- 広報の拡充
- 少人数ならではの教育の魅力化
- 学校を核としたコミュニティの再構築



社会科「防災学習」(堀本教育長による震災の体験談)



モルック体験



三望台シャンツェ見学



川内村クイズ(堀井教諭による授業)



羊と雲の丘 エサやり体験



北の大地で交流学校 開校式

児童・生徒の声

- 士別南小学校の教室では、私たちの約2倍の人がいて驚きました。授業を受けていくと、だんだんとクラスに馴染むことができました。積極的に声をかけたことで、たくさん友達できました。
- 士別南小学校のみんなは、やさしくて、話しやすく、元気で明るくて、すごく素敵だと思いました。2日間という短い時間でしたが、親友のように仲良くなれました。また、いつか北海道に行く機会があれば、絶対に士別市に行きたいと思います。

教職員の声・成果

- 士別南小学校での交流授業では、最初は緊張からなかなか発言できない児童がいましたが、士別南小学校5年生のみなさんが、温かく迎えてくださり、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞き入れたり、積極的に交流する姿が見られました。
- 休み時間には、流行っている遊びを教えてもらい、一緒に楽しく活動する姿が見られました。また、社会教育体験として、プラ板づくり、モルックを体験し、協力し合って活動できました。このような活動により社会性や協調性を育むことができました。
- 士別市内施設見学では、岩尾内ダム内の内部見学、三望台ジャンツェ(ジャンプ台)の頂上からの眺め等、士別市でしか経験できない貴重な体験を積むことができました。子どもたちにとって、北海道ならではの広大な大地で、体全体を使って活動することができ、忘れられない宝物になりました。
- 堀本教育長から東日本大震災当時の状況についての講話があり、震災の体験を伝えていくことの重要性を改めて感じました。自然災害への備えについて、子ども達同士で話し合う時間を持つことができ、家庭での備えについていろいろな意見交流ができていました。

保護者の声

- 最初は、親と離れることに不安感があったようですが、帰宅後は、士別南小学校で仲良くなった友達の話や算数を教えてくださった先生の話など、目を輝かせて話をしてくれました。とても思い出に残る楽しい活動だったのだと思います。この経験をこれからの学習や生活に生かして、友達と協力してがんばってほしいです。

檜葉町立檜葉小学校



事業の目的

探究的な見方・考え方を働かせ、探究のプロセスを重視した学習過程を繰り返し設定するとともに、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するために、地域の環境や文化、産業等について学ぶ「ふるさと檜葉学」の充実を図る。

取り組みの全体内容

- ・ふるさと ならはってどんなまち?(3年・通年)
- ・ふるさと ならはの産業(5年・通年)
- ・ふるさと の川「木戸川・井出川」(4年・通年)
- ・ひらこう! ならはの未来(6年・通年)

代表的な取組

稲刈り体験

開催日: 2025年10月22日(水)
対象学年及び参加人数: 5年生29名
開催場所: 檜葉町内水田

介護予防運動

開催日: 2025年9月25日(木)
対象学年及び参加人数: 6年生27名
開催場所: 檜葉町保健福祉会館

今年度の取組で重視したポイントの内訳



稲刈りの仕方について説明を聞く様子



介護予防運動を実践している様子



ゆず農家見学の様子



牛の乳搾り体験の様子



藍染め体験の様子

児童・生徒の声

- 檜葉町の平均寿命は他市町村よりも短いことに疑問を感じて、介護予防運動について調べた。地域の課題に着目して、自分たちにできることを考えていくことは難しいところもあったが、一緒に高齢者の方と実践して、町の一員としてやりがいを感じた。

教職員の声・成果

- 探究の学習を通して、以前よりも子どもたちが主体的に地域の良さや課題に関わろうとする姿が見られるようになった。

保護者の声

- 学校で配付されるイベントのチラシや町の施設に掲示してあるポスターなどを以前よりもよく見るようになって、子どもたちが町についての関心が高まっているのだと感じた。

檜葉町立檜葉中学校



事業の目的

将来の地域発展に貢献できる人材を育成することを目標とした起業家教育を取り入れるとともに、英語教育などとして異文化を学習することにより、国際感覚、多様な考えを理解する心を育み、主体性・協調性・社会性を身につけた人材の育成。また、キャリア教育との相乗効果によるコミュニケーション能力の更なる向上を目指すことを目的とする。

取り組みの全体内容

- ・ブリティッシュヒルズ英語研修(4月)
- ・大学・企業訪問(10月)
- ・ゆずり葉祭(10月)
- ・ふるさと創造学サミットでの発表(11月)

代表的な取組

ブリティッシュヒルズ英語研修

開催日: 2025年4月22日(火)～23日(水)
 対象学年及び参加人数: 2年生21名
 開催場所: ブリティッシュヒルズ

大学・企業訪問

開催日: 2025年10月30日(木)～31日(金)
 対象学年及び参加人数: 3年生25名
 開催場所: 慶應義塾大学(大学訪問)・
 東洋製罐株式会社(企業訪問)

今年度の取組で重視したポイントの内訳



レッスンの様子(英語表現の練習)



グループワークの様子



英国式テーブルマナー講座の様子



レッスンの様子(英語表現を学ぶ)



企業訪問グループワークの様子(東洋製罐)



東洋製罐工場見学 企業訪問

児童・生徒の声

- ブリティッシュヒルズでは、英語を聴く・話す機会が増え英語を深く学ぶことができました。特にテーブルマナー講座では、英国式のマナーを学び、ナイフやフォークの使い方や上品で物静かに食事をするマナーを知ることができました。

教職員の声・成果

- 町の課題を生徒自らが考える課題探求型事例研究として、今回慶応大学や東洋製罐を訪問いたしました。大学や企業とのグループワークを通じて課題解決事例を学ぶことができたことは起業家教育として目的を達成できたと思われる。

保護者の声

- 町として英語教育に力を入れていることから、今後も引き続き英語力の向上につながる取り組みを行ってほしい。

広野町立広野小学校



事業の目的

- ①教職員及び加配支援員が特別支援教育への理解を深め、個の発達段階や個性に応じた特別支援が展開でき、保護者や地域と一体になって相談事業に応じられる。(支援員加配)
- ②対象児童の学校満足度・学校生活意欲を評価し、教職員等と理解共有しながら、前年度比較により是正箇所または教育方法に取り組む。(つなぐ教育)

取り組みの全体内容

広野小学校は学校規模に対して特別支援を要する児童数が多い傾向があるほか、通常学級児童の中にも特別な支援を要することが適していると懸念される児童がいる。学級担任は必ずしも専門知識を有しているとは言えず、個の発達段階に応じた適切な指導をするためには、対象児童の家庭環境や個性を把握するとともに、自ら研究する必要がある。よって、個性ある児童の合理的配慮に基づく特別支援を展開するため、①支援員を加配する(支援員加配)、②専門家への相談体制を構築する(つなぐ教育)という2つの支援を行う。特に②は、児童発達支援センターの専門家1名を小中学校に招聘し、教職員の研修のみならず保護者への個別相談も実施する。また、QUテストを実施し、学校満足度・学校生活意欲を評価する。本テストにより、学級担任及び支援員との関係性を評価し、前年度からの変化を捉え、専門家から指導助言いただき、より適切かつきめ細やかな特別支援教育を展開するための研究を行う。

代表的な取組

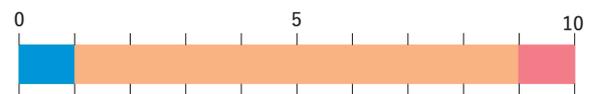
- ・就学前の子への保護者の関わり方についての説明
- ・授業参観及び教師への助言

開催日: 6/24、7/28、10/7、12/2、2/7
 対象学年及び参加人数: 児童生徒9名、
 教職員

開催場所: 広野小学校内

今年度の取組で重視したポイントの内訳

- 広報の拡充 (合計10)
- 少人数ならではの教育の魅力化
- 学校を核としたコミュニティの再構築



特別支援学級3校交流会
 檜葉小・富岡小



さくら農園 畝づくり

自立活動 電話のかけ方



さくら農園 さつまいも収穫

児童・生徒の声

- ピザパーティやさくら農園、スイートポテト作りなどの自立活動が楽しかった。
- 異学年との交流がたくさんできたのがよかった。

教職員の声・成果

- 支援員の加配により自立活動や日常の指導の中で、それぞれの特性に合わせた細かい支援・指導を行うことができた。また、活動の幅を広げてたくさんの経験をさせることができた。
- 専門家への相談体制が整ったことで、支援・指導に対する悩みを共有して解決できる機会が増えた。また、特別支援学級だけではなく通常学級の児童でも専門的なアドバイスがいただけるようになり参考になった。

保護者の声

- さくら学級に入級したことで、少人数で落ち着いて見てもらえる環境であったり、上級生をお手本として近くで見られる環境であったりして、情緒的に落ち着いて学習や日常生活に臨むことができていた。
- さくら学級が安心して過ごせる拠点になっていたことで、安定した学校生活を送ることができていた。

広野町立広野中学校



事業の目的

生徒が異文化や国際問題を理解し、国籍の異なる者に対してコミュニケーションを図ることができるようになるとともに、SDGsの視点から他国の行動を理解し、取り組みを地域に発信する。(グローバル・デイ)

取り組みの全体内容

東日本国際大学との連携により、広野中学校において『グローバル・デイ』として実施。7月から、留学生(4名程度)を招聘し、ゲストティーチャーとしての役割や共に授業を受けるなどの交流を通して、異文化、歴史、言語などに触れる活動を実施し、SDGsの視点から異文化の取り組みを学習し地域に発信する。

代表的な取組

グローバル・デイ当日は、日常生活全般を通して英語を使用する日とし、英語の授業や単学活、校内放送等、可能な範囲内で英語を使用する。また、給食、昼休み時間も共に過ごし交流を深める機会とする。

開催日：5/8、6/24、10/6、12/9、2/18
 対象学年及び参加人数：中学1年生～3年生 115名
 開催場所：広野中学校内

今年度の取組で重視したポイントの内訳



生徒が自分たちで作成した質問シートを手にし、お互いに質問し合いながら会話を楽しむ様子



児童・生徒の声

- 時々うまく言いたいことが伝わらず大変なこともありましたが、交流できてとても嬉しかったです。もっと英語を勉強して、よりたくさん会話ができるようになりたいです。
- 英語を通して、他国の文化について知ることができました。
- 会話の中で十分に反応できなかったのも、もっと語彙を増やしたいと思いました。
- 一緒に給食を食べたとき、箸の使い方や他国の食文化について話すことができ、とても楽しかったです。



教職員の声・成果

- 本校生徒が留学生のプレゼンテーションを熱心に聞き、興味・関心をもって異文化について学ぶ姿が印象的でした。また、留学生が本校生徒の英語を丁寧に聞き取り、文法が完璧でなくても理解しようとしてくれたことで、生徒たちも恐れずに英語を話すことを楽しんでいる様子が見られました。授業内でも、より積極的に英語を使おうとする姿が見られました。福島県内では外国の方と話す機会が多くないため、このような経験は生徒にとって非常に貴重なものだと感じました。



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1314
FAX:(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp



R7 研修会 REPORT

避難地域 1 2 市町村における 少人数教育に対応した教授法に関する教員研修

- 日 時：令和7年9月26日（金）10：05～16：10
- 会 場：東日本大震災・原子力災害伝承館、双葉町産業交流センター
- 参加者：小・中義務教育学校教員、市町村教育委員会指導主事等合計55名
- 内 容：（1）伝承館における施設見学等の研修プログラム
（2）ラウンドテーブル
①代表校発表
双葉町立双葉南・北小学校、南相馬市立小高中学校、川内村立川内小中学園
②ラウンドテーブル「少人数教育における探究的な学びを支える教員の在り方について」
（3）講演「子どもの『主体的な学び』を支える
－①『本時主義』からの脱却 ②主体的な学校運営への参画－」
南砺市教育委員会教育長
富山大学名誉教授 松本 謙一 様

【研修のまとめ】

【伝承館における施設見学等の研修プログラム】

東日本大震災・原子力災害伝承館の見学をとおして、複合災害を知り、学ぶことができました。見学後は榎葉町立榎葉中学校長松本涼一様を講師に、被災時の教育現場の話聞き、共感することができました。

【ラウンドテーブル】

3つの学校から以下の内容について実践発表していただきました。

双葉町立双葉南・北小学校：町の「産業」「文化」「地域」について探究する児童の深い学びについて

南相馬市立小高中学校：生徒が主体的に学びだす教師の働きかけについて

川内村立川内小中学園：義務教育学校の良さを生かした「かわうち創造学」について

【講演】

これまでの実践に基づいた力強い講演をしていただきました。「子どもたちの主体的な学びを促すためには主体的な指導者が必要です。先生方自身がワクワクしていますか？」（松本謙一様より）

研修の感想

- 震災のことを伝えていくことの大切さを改めて感じました。今後は視座高く物事を考えていきたいです。
- 感動して涙が出ました。教員になって良かったと思えるお話でした。もっとできることがある。学校に戻るのが楽しみになりました。
- 福島県で働く教員として、また、県民としてとてもいい研修になりました。



10月9日 発行





〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1314
FAX:(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp



R7 研修会 REPORT

令和7年度 避難地域12市町村小中学校等教育推進事業

『通常学級に在籍する教育的支援を必要とする児童生徒理解』教員研修

- 日 時：令和7年12月12日（金）13：15～16：00
- 会 場：浪江町防災交流センター
- 参加者：小・中義務教育学校教員、市町村教育委員会指導主事等合計48名
- 内 容：講話「特別な教育的支援を必要とする児童生徒理解」

福島学院大学 福祉学部 福祉心理学科 講師 佐藤 則行 様

【研修のまとめ】

令和3年12月に策定された「第7次福島県総合教育計画」には「学びの変革」が掲げられ、インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、多様な学びの場や交流及び共同学習の一層の充実・整備を目指しています。東日本大震災により大きな被害を受け、住民が一時的に避難し、また新たに地域を復興させようとするこの地域だからこそ、一人一人が持つ可能性を最大限に伸ばし、一人一人にとってよりよい生活・人生につながっていく教育や、立場や考え方、強みの異なる県内外・国内外の人々対話・協働して、新たな技術や方法、価値を創造していく教育の充実を図っていくことに大きな価値があります。

- 通常学級に在籍する教育的支援を必要とする児童生徒を理解するための知識と視点、日々の授業や支援の工夫についてご講話をいただきました。

研修の感想

- 日常的にできている「よいところ」を具体的に、教員が認識し、声にして伝えることで、いい面に焦点が当たりよい行動につながるということが印象的でした。また、講話で実際の支援について、自校の生徒をイメージして実践したことで、個別最適な支援について考えることができました。
- 通常学級の現状や、支援を要する子がどのような考えで学級にいるかを知るよい機会となりました。本研修で得た手立てを、学級にしやすい環境づくりに生かしたいと思います。
- よい行動を増やすために意識するポイントを教えていただいたため、意識して声かけを行っていきたいと思います。
- 教育的支援についての資料が豊富で演習もあり、とても勉強になりました。佐藤先生の講話が素晴らしかったので、もっとたくさんの通常学級の先生方にも参加して頂きたい内容だと感じました。



12月26日 発行



わかりやすく
説明します!

福島イノベーション・コースト構想

はじまりの物語

2011年3月11日、東日本大震災。
福島県内では原子力災害が起きました。

それにより多くの人々が
ふるさとに住めなくなってしまいました。



福島県の農業や工業の元気も
なくなってしまいました。

そこで!!



色々な分野の専門家が知恵と技術を集めて、
福島を元気にしようという

新たな
国家プロジェクト
がスタート!



それが

福島イノベーション・コースト構想です。

「イノベーション」とは、新しい技術を発明して
社会に大きな変化を起こすこと。

「コースト」は、海岸や海岸線という意味で
名付けられました。



福島県の
海側を浜通りと
いいます!

ではどんな未来が
広がっているのか、
さっそく見
に行ってみましょう!



福島イノベ



次世代航空モビリティ、ロケットの
開発や関連企業の競争力強化

6 航空宇宙

誰もが気軽に宇宙を使える未来
を目指したロケットや、未来の映
画や漫画で見たような空飛ぶワ
ルマの開発が行われています。



技術開発支援を
通じ企業の販路を
開拓

5 医療関連



国内トップレベルの医療関連産業の集
積地として、病院や介護施設等で役立
つさまざまな医療機器や技術開発が
行われています。



ICTやロボット技術等を活用した
農林水産業の再生

4 農林水産業

人の力だけに頼らず、ロボットやコン
ピュータを取り入れた新しい農業の技術
開発が進められています。



ミッション・コースト構想

6つの
主要
プロジェクト

国内外の英知を結集した技術開発

はいろ
① 廃炉

じこ
事故が起きた原発の廃炉を進めるため、いろいろな技術の開発や研究を進めています。



出典:東京電力ホールディングス

福島ロボットテストフィールドを中核に
ロボット産業を集積

② ロボット・ドローン



はまどお ちいさ
浜通り地域等では、ロボット産業の集積に力を入れており、南相馬市と浪江町にある福島ロボットテストフィールドでは、ロボットやドローンを使ったさまざまな試験が行われています。

せんたんでき さいせいのかう
先進的な再生可能エネルギー・
リサイクル技術の確立へ

③ エネルギー・環境・リサイクル

なみえまち
浪江町にある「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」では、再生可能エネルギーを利用した水素製造システムの開発がすすめられており、世界有数の規模となっています。





福島
イノベーション
コースト
構想推進機構

公益財団法人
福島イノベーション・コースト構想推進機構

2026年2月24日発行

<https://www.fipo.or.jp/>

〒960-8043 福島県福島市中町1番19号 中町ビル6階
TEL: 024-581-6897 FAX: 024-581-6898

本実践事例集は、文部科学省の「福島県教育復興推進事業」
(避難地域12市町村における小中学校教育等推進事業)により作成しました。